現場レポート

パリ事務所

SNDGCT 年次総会に参加

（一財）自治体国際化協会パリ事務所　所長補佐　齊藤　茉優（福井県派遣）

SNDGCT 年次総会

クレアパリ事務所は、2025 年 9 月 25 日と 26 日の両日、フランス西部ペイ・ド・ラ・ロワール州アンジェ市で開催された、全仏事務総長組合（SNDGCT）の年次総会に参加しました。SNDGCT は、フランス国内の地方自治体における事務総長、事務次長およびその経験者を会員とする全国規模の職業団体であり、その総会はフランス各地の自治体行政の中核を担う幹部職員が一堂に会する貴重な機会となっています。

会場外観

全体会議と分科会

SNDGCT 年次総会は、主に全体会議と分科会の 2 つで構成されています。各日の午前中に行われた全体会議では、管理職のマネジメントや人材を重視した組織変革、組織運営の課題などについて、専門家や自治体関係者による発表と議論が行われました。

午後からはテーマ別の分科会が複数開かれ、参加者はそれぞれの専門分野や関心に応じて自由に参加することができました。今回の分科会では、ワークショップ形式による複数のセミナーが実施されました。その内容は、地方自治体幹部として求められるリーダーシップのあり方から、キャリア形成、地方公務員向けの社会保障制度、さらには地域経営や財政運営に関する実務的なテーマまで、多岐にわたりました。

いずれのセミナーでも、同じ立場にある事務総長や事務次長同士が日々の課題や取り組みを共有し、活発な議論が交わされていました。質疑応答の時間も熱気にあふれ、終了後も質問が途切れない様子が印象的でした。

全体会議の様子

地元楽団による歓迎コンサート

25 日の夕刻には、歓迎イベントの一環として、地元楽団による歓迎コンサートや、美術館での夕食会が行われるなど、この会議は開催地の PR の場としても活用されています。

クレアパリ事務所長も発表

26 日の午後には、分科会の 1 つとして、「リスク管理における自治体の事務総長の戦略的役割 ― 国際比較アプローチ」という特別セッションが開かれました。このセッションは、地方行政におけるリスクマネジメントを国際的な視点から考察することを目的としており、クレアパリ事務所長も発表者として登壇しました。発表テーマは「日本における災害時の自治体の応援連携について」であり、日本の自治体が災害発生時にどのように役割を分担し、支援体制を構築しているかを紹介しました。特に、災害対応における自治体間の連携や、応急対策職員派遣制度など、実例を交えて説明しました。

同セッションでは、デンマークから招かれた講師による発表もあり、気候変動リスクやサイバー攻撃への備えなど、現代社会が直面する新たな危機管理の在り方が紹介されました。フランスの発表者は、フランスの自治体における危機管理（高潮による浸水のリスクを想定した広域災害対応訓練）について発表しました。発表後の質疑では、日本の自治体規模や防災体制に関する質問、さらに情報通信技術（ICT）を活用した危機対応などへの質問もあり、活発な意見交換が行われました。

分科会でのクレアパリ事務所長の発表

参加者との交流

また、SNDGCT 年次総会には、クレアの事業である「海外自治体幹部交流協力セミナー」（海外の自治体幹部職員を日本へ招き、政策課題に関する意見交換を行う交流事業）への参加者も多く出席していました。今年も過去の参加者たちと再会することができ、日本での訪問経験や学びについて語り合うとともに、参加者同士がその経験を共有する姿が見られました。こうした交流は、長年にわたり築かれた信頼関係の継続と深化を象徴するものです。

そのほか、会場内には総会参加者を対象とした企業ブースも多数設けられていました。出展分野は、事務用品や保険、情報管理システムのほか、職員の福利厚生に関わる機器やサービスなど多岐にわたり、参加者はセミナーの合間を利用して各ブースを訪れ、担当者と情報交換を行っていました。これらの展示は、自治体職員と企業双方にとって、効率的な商談の機会となっていました。

企業出展ブース

このように、SNDGCT 年次総会は、フランス全土の自治体関係者が最新の行政課題を共有し、互いに学び合う場であると同時に、国際的なネットワークを拡大する重要なプラットフォームでもあります。実際に、外国訪問団として、クレアパリ事務所のほかに、イタリアやベルギー、ルーマニア、セネガルなどの自治体関係者も総会に参加していました。クレアパリ事務所にとっても、SNDGCT 年次総会は、フランスの自治体関係者との関係を深め、新たな協力の可能性を探る絶好の機会となりました。こうした継続的な参加を通じて築かれるネットワークは、今後の情報収集や自治体間交流の促進において、ますます重要な役割を果たしていくことが期待されます。